

# 紋別市

8327 田中 志保

## 1. 概要と歴史

### 1-1. 地名の由来

地名の由来は、現在の市内中央部を流れる藻鱈川を指すアイヌ語の mo-pet( 静かである・川 ) からきている。日高支庁の旧門別町( 現：日高町 ) と読みが同じだったため、「オホーツク紋別」または「北見紋別」と呼んで区別することが多い。

### 1-2. 歴史

紋別市はオホーツク海沿岸の数少ない天然の良港として、貞享年間( 1684 年～1687 年 ) に松前藩がその直領としていた宗谷場所から斜里場所へ至るオホーツク海沿岸の寄港地として利用したのが始まりといわれている。明治 13 年( 1880 年：紋別市の「開基の年」) には紋別村外 9 カ村戸長役場を設置し、以後、沿岸漁業の活性化や道路の開削、国鉄名寄線の開通により、人口は急増し、地域の行政および産業経済の要所として発展を続けた。昭和 29 年( 1954 年 ) 7 月 1 日紋別町・渚滑村・上渚滑村の 1 町 2 村の合併により、漁業・農業・鉱業を基幹産業とする人口 3 万 6000 人の「紋別市」が誕生した。昭和 48 年、東洋一の産金量を誇った鴻之舞金山が閉山したが昭和 50 年には紋別港が重要港湾に指定され、国際貿易港としての整備が進み、近年はロシアサハリン州からの活力二輸入日本一を誇るなど商港としても定着している。平成 11 年に新オホーツク紋別空港が開港し、現在、東京直行便が 1 往復就航している。また、我が国唯一の氷海域であるオホーツク海の特徴を生かし、冬季はガリンコ号による流氷観光、夏季は花観光や釣クルーズ体験など、四季折々のオホーツクの自然を利用した観光にも力を注いでいる。

## 2. 地理・気候

図 1：道内での紋別の位置



出典：網走支庁オホーツク移住サイト

図 2：紋別市



出典：網走支庁HP

網走支庁北部に位置、オホーツク海に面し、紋別港を有する。冬季は流氷が接岸。市の部には高台が広がる。

## 2-1. 地理

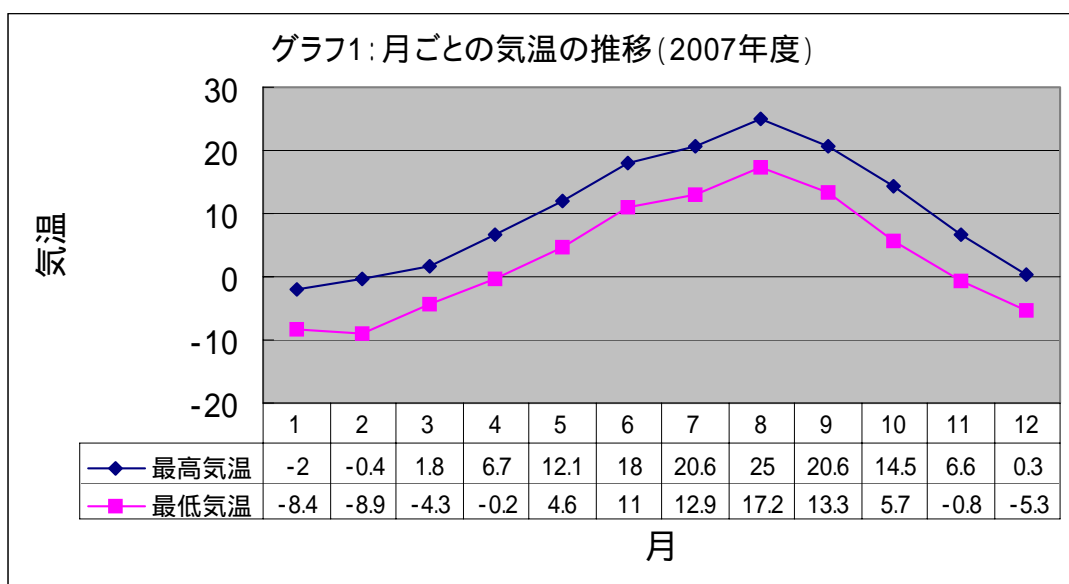
緯度は北緯 44 度、東経 143 度である。全国では、いわき、静岡、札幌、芦別について 5 番目に広い面積を有している。

北海道のオホーツク海沿岸のほぼ中央に位置し、一帯の土地は内陸へ徐々に高さを増し、西部は南北に連なる北見山地に南部は東西に起伏する千島山系に囲まれている。農耕地は天塩岳にその源を発する渚滑川流域より南東シブノツナイ川流域におよび、酪農・畑作が中心となっている。弁天岬から弓状に伸びる海岸線は風波を避ける天然の良港で、オホーツク海屈指の港まちである。主な河川としては渚骨川・渚骨古川・ウツツ川・藻鱸川が挙げられる。主な山岳は北見富士・立牛岳が挙げられる。

## 2-2. 気候

春～秋は比較的穏やかで晴れの日が多い。日照時間が長いのも特徴である。また、梅雨もないので年間平均降水量も 800mm 前後と少なく、さわやかな気候が続く。長い日照時間を生かし、イベントなどが催されている。スポーツ合宿も盛んに行われている。冬は 1 月下旬から 3 月にかけて、沿岸部ではオホーツク海特有の流氷によって海面が覆われるという他の地域には見られない特色を持っている。冬の戸外では、気温がマイナス 10 度を下回ることもある。

月ごとの気温の推移は以下のようにになっている。

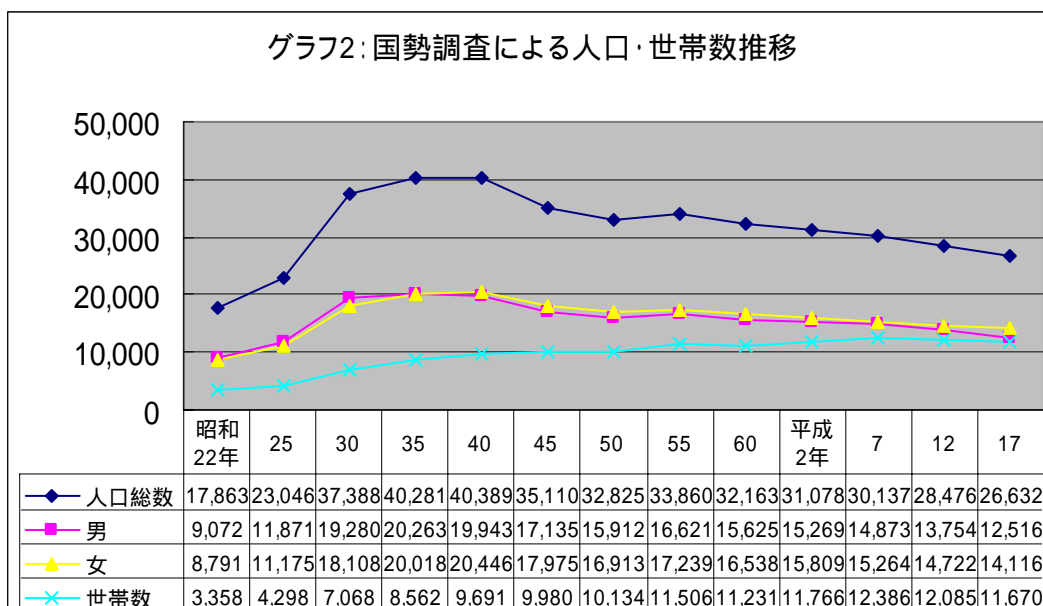


### 3.人口・世帯数推移

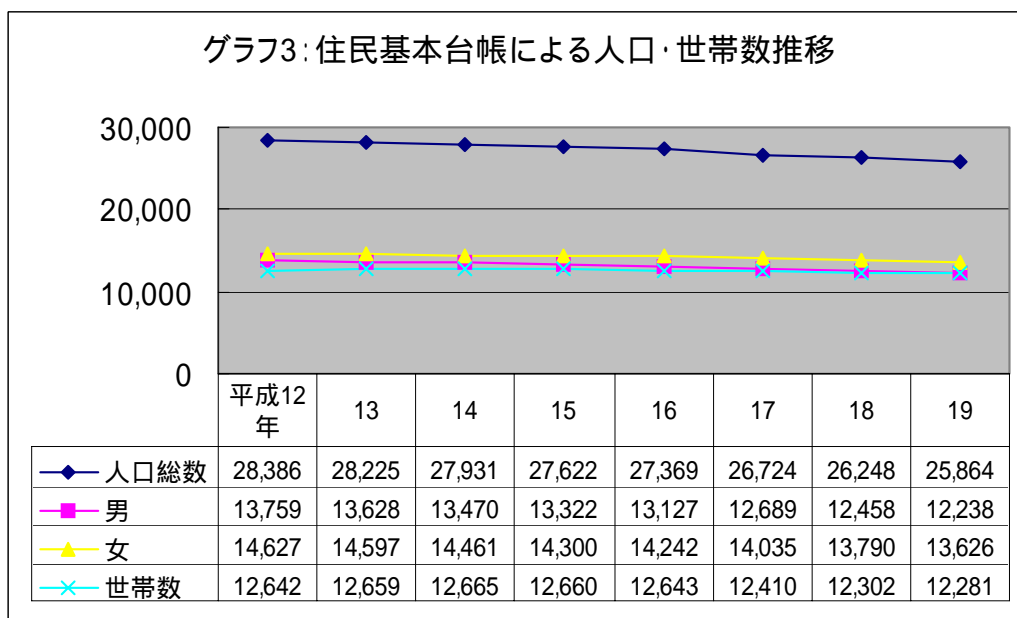
2つのデータから読みとれることは、人口は減っているが世帯数は増えているということである。男女の人口はほぼ同じくらいの数値を示している。

また、2008年3月の年齢別人口データでは、総数25,788人のうち、0～9歳が2,022人、10～19歳が2,249人に対し、60歳以上が8650人となっている。人口は減っているのに、その内訳は60歳以上の高齢者が多くを占めている。それは紋別市でも、少子高齢化が進んでいることを表す。少子高齢化が進んでいくと、生産年齢の人口が減るために市の税政にも影響が出ると考えられる。それに加え、紋別市では少子高齢化が進んでいるにも関わらず、児童福祉施設はそれなりに整っているが、老人福祉施設はあまり整っていないというデータもある。人口総数は少しずつ減ってきている。その中で、少子高齢化の根本を解決するために、子供を産みやすい環境を維持していくことも大切であるが、同時に高齢者に対する配慮も進めていくべきだと考えられる。

グラフ2: 国勢調査による人口・世帯数推移



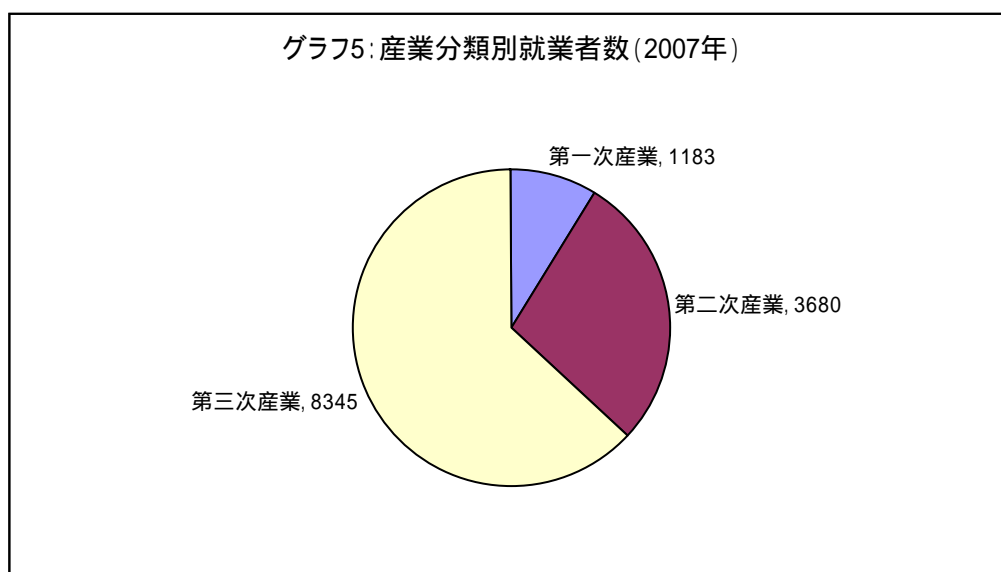
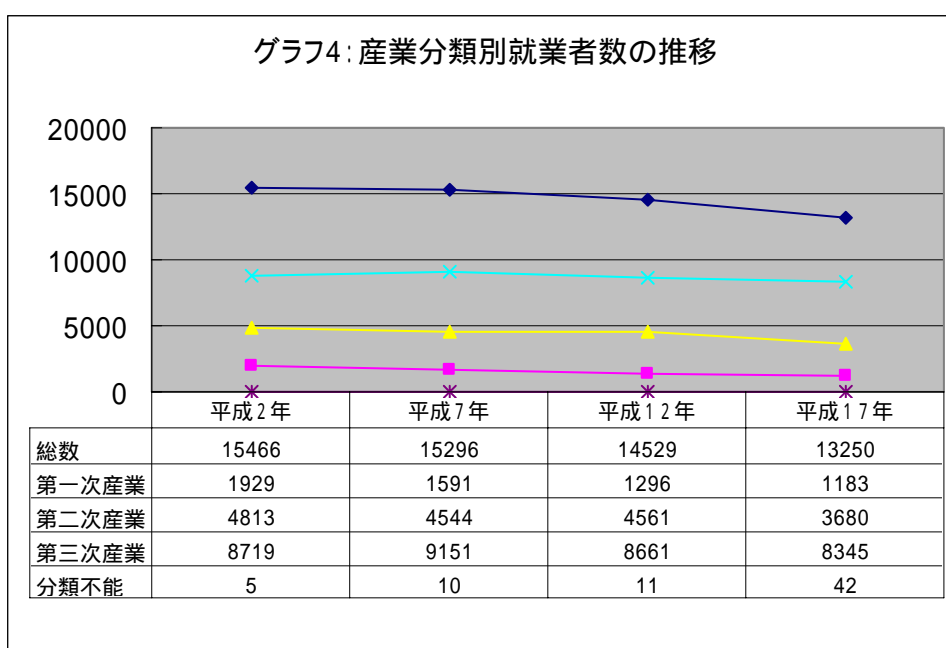
グラフ3: 住民基本台帳による人口・世帯数推移



## 4. 産業

### 4-1. 産業分類別就業者数

第一次産業・第二次産業の就業者数は年々減っている。第三次産業は他 2 つに比べ就業者数は多いものの、年々減りつつある傾向に変わりはない。紋別は漁業が盛んな地であるにも関わらず、第一次産業就業者数が少ないのは問題である。人口が減ってきていることも就業者数減少に影響を及ぼしていると考えられるが、紋別の漁業は街の振興に大きな成果を残してきた。これからより一層、漁業だけでなく他の産業にも言える事ではあるが、産業振興に向けた施策に取り組んでいくべきだと考える。



## 4-2. 農林業

紋別の漁業とならぶまちの基幹産業として歩み続けてきた農林業。このうち農業では酪農や畜産、畑作などが営まれてきている。酪農の中心は乳牛・肉牛で、毎日 160 トン以上も生産される牛乳は市内の工場で新鮮な乳製品に加工され出荷されている。また畑作では、海に負けないぐらいの恵みをもたらす豊かな大地の中で古くからの主幹作物であるビートのほか、スイートコーン、じゃがいもの生産が取り組まれ、オホーツクの食料生産基地として歩んでいる。近年は、付加価値向上のため農業者自ら行う加工品の製造・販売や、野菜・花など収益性の高い作物の導入、さらにファームイン・直売所・農業体験などによる都市住民との交流といった取り組みが行われている。一方林業では、森林のもつ公益的機能を活用して、学習、スポーツ、レクリエーション活動が盛んになりつつあり、このための施設整備も進められている。

## 4-3. 漁業

近年は、国際的な漁業規制の強化と定着、近海での漁獲資源の減少など、厳しさを増す漁業環境を踏まえて、「育てる漁業」への積極的な取り組みが図られ、ホタテやサケ・マスの資源が安定し、なかでも、ホタテは我が国でも有数の生産地として知られており、品質の良さと相まって日木各地に届けられ、まさに紋別漁業を代表する水産物である。サケ定置網漁業並びに沖合海域を漁場とする沖合い底引き網漁業を中心に営まれている。また、自然の宝庫であるコムケ湖では、浅海漁場利用事業が進められ、カキ貝の養殖が脚光を浴びるなど、各海域に適した市場性の高い魚介類の栽培事業の技術開発などにも力を入れている。紋別の漁業は、これまでの街の歴史に大きな足跡を残してきた産業であるとともに、21 世紀に向けてなお重要な役割を果たしつつしていく産業でもある。紋別市ではこうした位置付けから、より一層の漁業振興に向けた積極的な施策に取り組んでいる。ちなみに水産加工業では、かつての主原料であったすけとうだらなどの多獲性漁種の漁獲が減少したことから、地場資源の有効活用をはかりながら、高次加工や新分野への事業転換に取り組んでいる。

図 4：主要農作物作付面積・収穫量

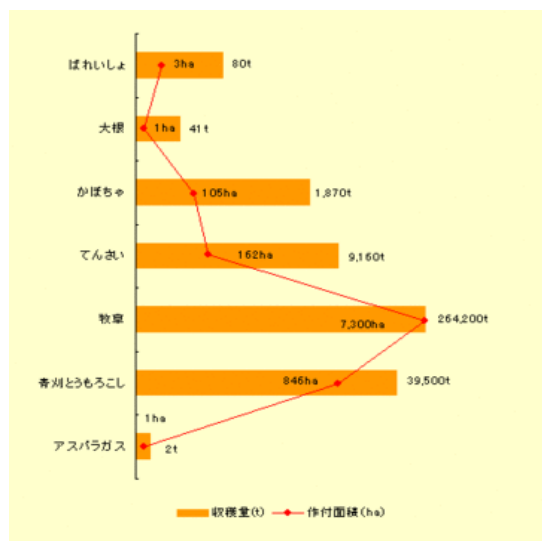
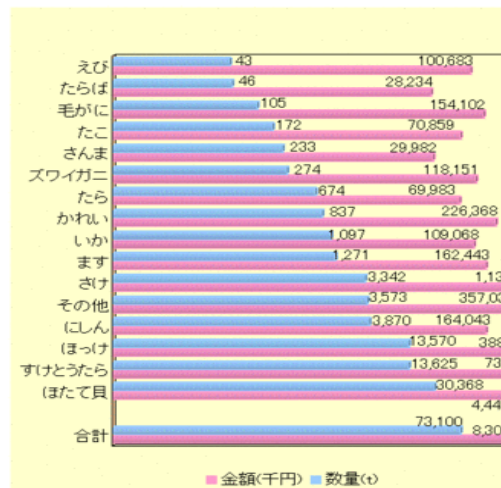


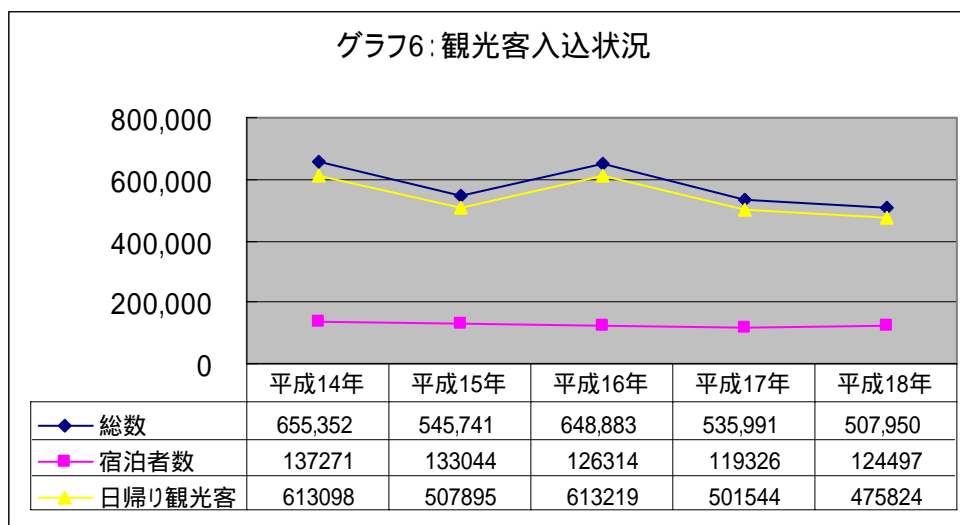
図 5：魚種別漁獲高



出典：紋別市 HP

出典：紋別市 HP

## 5. 観光



観光客入込状況から読み取れることは、宿泊者数が非常に少ないことである。日帰り観光客が多いということは、ほとんどが道内からの観光客であることを示している。この下でも触れているが、ガリンコ号やオホーツクタワーなど、北海道の冬を満喫できる観光スポットが多くあるので、道内客だけでなく、道外客にもアピールすべきであると考えられる。

図5: ガリンコ号

名所1: ガリンコ号

音をたてて流氷原を砕きながら、豪快に進んでいくおなじみの流氷砕氷船ガリンコ号2。乗った人だけが体験できる氷を砕く振動と間近で流氷をみることが出来る臨場感は迫力である。ときおり、アザラシやワシが姿を見せることもある。また、冬の流氷観覧だけでなく、夏の釣りや、オホーツク海クルージングも楽しむことができ、四季を通じて紋別の自然を満喫できる。



出典: 紋別市HP

名所2: オホーツクタワー

オホーツク海の約1キロメートル沖にそびえる世界初の氷海海中展望塔。海上38.5メートル・海底7.5メートルからの流氷観察や四季を通して海の生きものたちの生態観察が楽しめる。

図6: オホーツクタワー



出典: 紋別市HP

る。ときには、夜間の窓越しから大自然の食物連鎖を目撃することもある。普段は見ることのできない海の中の不思議に触れることのできる体験ゾーンである。

紋別市では様々なイベントが行われている。主なものは以下の3つである。

### **もんべつ流氷祭り（2月）**

紋別が1年で最も寒くなる時期に開催される冬最大のイベント。会場には数多くの氷像が立ち並び、訪れる人々を魅了する。メインステージでは、歌謡ショーなどといったアトラクションの他、氷柱ガマン抱きつき大会など楽しいイベントが盛りだくさんである。地元特産品の味覚市コーナーも軒を連ね、厳冬の中、炭火で焼いたあつあつの海産物を楽しむこともできる。

### **もんべつ観光港まつり（7月）**

紋別の夏最大のイベント。紋別港中心に露店が立ち並び、みこしの練り歩きで始まり、さまざまなイベントが満載である。一番の見どころは、なんととっても道北最大のスケールを誇る花火大会。紋別港から打ち上げられる約2000発もの花火が夏の夜空を華麗に彩る。

### **もんべつグルメ祭り（10月）**

秋の味覚が満載の紋別最大の味覚イベント。氷紋の駐車場に設置された特設会場では、紋別ならではの水産物、農産物が手頃な価格で販売される。最大の魅力は、新鮮な海の幸や山の幸を会場に設置された焼物コーナーですぐに味わうことができるということである。

### **参考 HP**

ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%8B%E5%88%A5%E5%B8%82>

紋別市役所 HP <http://www.mombetsu.jp/>

紋別市の紹介 <http://www.bekkoame.ne.jp/~dezka/monbetsu.htm>

網走支庁オホーツク移住情報サイト <http://www.bekkoame.ne.jp/~dezka/monbetsu.htm>

紋別観光協会 <http://www1.ocn.ne.jp/~monkan/MMM2.html>

気象庁 HP <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

紋別商工会議所 <http://www.mon-cci.or.jp/>